

「進化」する地域包括ケアの真実

過去と現在そして「これから」

「地域包括ケアシステム」の原点は、昭和50年代、初め広島県御調町(現在は尾道市)の国保病院(現在の公立みつき総合病院)にあります。手術後にリハビリを受けて退院した患者が、在宅復帰後に寝たきり状態になることを防ぐため「出前医療」(現在の「在宅ケア」)が始められたのを契機に、同病院に健康管理センターが併設され、当時の山口昇病院長(現・名誉院長)の元で、町の保健と福祉に関する行政部門が一元的に管理運営されるようになったことから発展していったものです。

②新たな「住まい」の形を用意し、自宅、施設以外の多様な「住まい方」を実現すること

③施設サービスの機能を地域に展開して在宅サービスと施設サービスの隙間を埋める、施設においては個別ケアを実現していくこと

厚生労働省がこの地域包括ケアシステムを介護保険制度見直しの際に据えようという姿勢が明確になったのは、中村秀一氏が厚生労働省老健局長在任時に立ち上げた私的研究会「高齢者介護研究会」(座長・堀田力さわか福社財団理事)がまとめた報告書「2015年の高齢者介護―高齢者の介護を支えるケアの確立に向けて―」(2003年6月)においてです。

同報告書では、目指すべき基本である「尊敬を支えるケア」の実現策のひとつに「生活の継続性を維持するための、新しい介護サービス体系」づくりを掲げ、そのためには「地域包括ケアシステムの確立が不可欠」だとしました。この「ひとりが住み慣れた街で最期までその人らしく生きることを保障するシステム」を確立するための課題を以下のように示しています。

原点は「御調町方式」 全国一律の発想の限界

- ①365日・24時間の安心を提供する、切れ目のない在宅サービスの提供を実現するための小規模・多機能サービス拠点の整備
- ②新たな「住まい」の形を用意し、自宅、施設以外の多様な「住まい方」を実現すること
- ③施設サービスの機能を地域に展開して在宅サービスと施設サービスの隙間を埋める、施設においては個別ケアを実現していくこと

- ①小規模多機能型居宅介護・複合型サービス・定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの新サービスの創設
- ②サービス付き高齢者向け住宅の制度の創設を中心とした住まいの整備
- ③地域密着型サービスと個

これらの課題に対して、現在までにどのような施策がとられてきたかを対応させてみると次のようになります。

①小規模多機能型居宅介護・複合型サービス・定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの新サービスの創設

②サービス付き高齢者向け住宅の制度の創設を中心とした住まいの整備

③地域密着型サービスと個

しかし一方で、「時代が室ユニット化の推進 目前に迫った2015年までに、質と量の両面から満足のいくアウトカムが得られるかどうかを別にすれば、施策としての一貫性はうかがえます。

一方、このような基盤が整備されただけでは、一人ひとりが住み慣れた街で最期までその人らしく生きることが保障されるわけではなく、「ケアマネジメントの適切な実施と質の向上」と「様々なサービスのコーディネート」という課題が解消される必要があるとも記述されています。これらの課題については、「地域包括支援センター」が創設された以外は、ほとんど手つかずといっても過言ではないでしょう。

そこで厚生労働省は「地域包括ケア研究会」を立ち上げ、2025年までに実現すべき地域包括ケアシステムの姿を、中間報告(2009年)および報告書(2010年)の形で提示してきました。

このような現状について、猪飼周平一橋大学大学院社会学研究科准教授は「100年くらいのスパンでみたととき、やはり『ヘルスケアの地域包括ケア化』はもう止まらないと思えます。たとえ厚生労働省が『もうやめた』と言いつつも、方向は変わらないでしょう」(新春対談病院の世紀から地域包括ケアの時代へ「医学書院」訪問看護と介護)2012年1月号)とその必然性を認めています。

が現実だと言えます。

「要支援の介護保険から市町村事業への移行」や「地域ケア会議の法制化」などを通じて、躍起になって「保険者機能と関与の強化」を介護保険制度軌道修正の柱にしようとしています。にもかかわらず、国の推薦する先進地をまねすればいいという保険者は、決して少なくありません。このような保険者の存在こそが、地域包括ケアシステム構築の最大の阻害要因となるのではないかと、危惧せざるを得ないのが現実だと言えます。

歩行をス、独自構造の製品

フロンティア 0120・88)の「アックック」はをつなぐ支点方向に動く杖。杖を前方た時でも支点のため、4脚地面に着地さ状態でも使えるムズな体重機能だ。

グリップ部点の移動は前右にはブレな大型アー、上体を支え

イーストア立区、03・393)の歩ーフィアーUタイプ」は



青木正人(あおきまさもと)
ウェルビー社長
1978年神戸大学経営学部経営学科卒業。書籍編集者を経て、介護福祉士養成校・特別養護老人ホームを設立・運営。2000年同社を設立。福祉介護事業の経営・人事労務・教育分野等のコンサルティングなどを行う。

